

ネットトラファフル¹³

子どもの

どう防ぐ?

日本国内で大きな問題になっている子どもたちのネット利用。今回は世界の事情を、私が見聞している範囲で紹介したい。

今や地球上のほとんどの国や地域で、携帯電話のネットワーク、そしてインターネット環境は進行。アジア、南米、アフリカ、旧東欧などでも、ネット環境は劇的に整備されてきている。

も多い。教材や課題がネット経由のことも多く、通学バスの中で無線LANが使える環境になっている場合もある。また学校内でのタブレット使用も増え、保護者や地域にiPadの寄贈を呼びかけることも多いのと。しかし、急激な普及でさまざまな問題が頻発している。

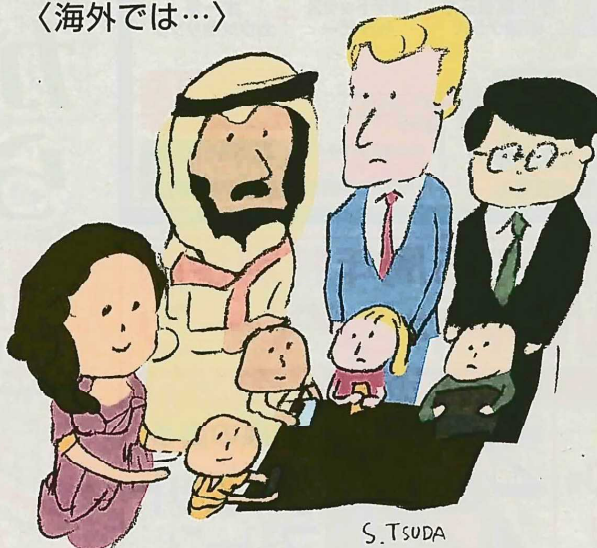
韓国では日本以上に高速回線が早く普及。その結果、死者も出るほどネットゲームに没頭する人が続出。政府は2011年11月、16歳未満の子が

午前0時から6時までの「ダウン制」を始めた。間、オンラインゲームを中国の場合は、青少年禁止する法律「シャット」のネット依存が深刻化。

世界の事情

依存深刻化 知恵を絞り対策

〈海外では…〉



S.TSUDA

長年にわたる一人っ子政策の結果、親の愛情を独占し、甘やかされて育った若者が、「楽で高給」な、希望する職種に就けなければ自宅に引きこも

の元に、教育省及び地方教育委員会と連携しながらネット安全教育を推進している。

り、そのままネット依存症に陥るケースが多いのだという。

各国、それぞれの機関が知恵を絞り、さまざまな対策を講じている最中だ。

イギリスでは、教育部門を併設した警察調査組織CEOP、教育工学に関わる研究機関Beeta、そして教材開発を行う非営利組織「チャイルドネット・インターナショナル」等が、政府主導

アメリカ小児学会は「小児科医は子どもが来院した時に『子ども部屋にテレビ、インターネット環境があるか』『どれくらいの時間、メディアを使うか』の2点を聞く必要がある。接触時間は1日2時間を上限とし、2歳以下の子供には一切接触させないことを勧めるべき」と提言している。

ネットトラファフル問題を解決する特効薬はない。危機感を持ち、現状の理解に努め、解決に向け知恵を集めるしかない、と

いつことだと思つ。